

【研究主題】

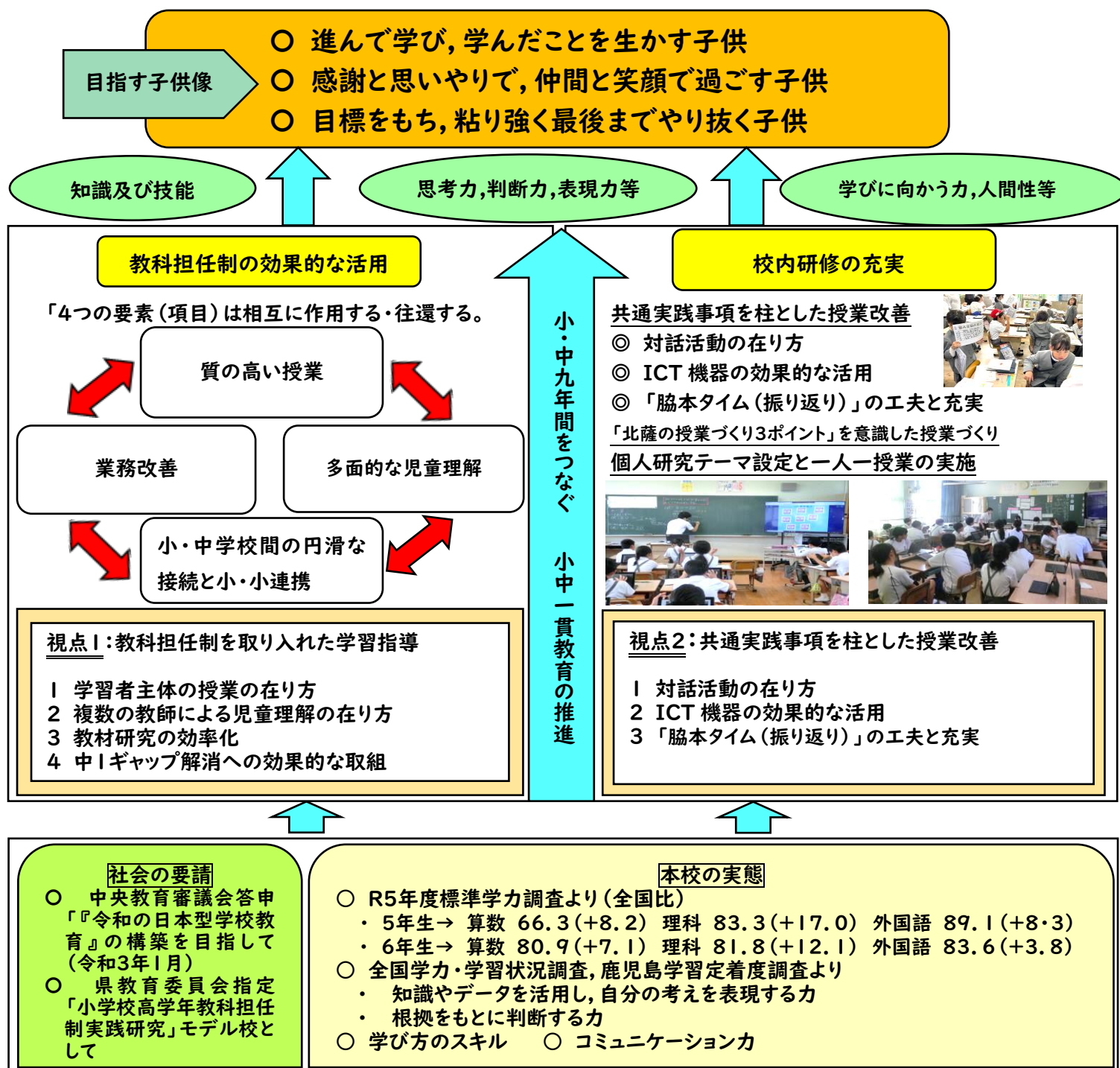
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
～高学年教科担任制による効果的な指導を通して～

【学校教育目標】：三笠中校区三校共通

分かる授業

楽しい学校

夢の実現



令和7年1月30日
阿久根市立脇本小学校

研究の視点2 共通実践事項を柱とした授業改善（校内研修の充実）

① 対話活動の在り方

「バズタイム」



かしこまらずに、気軽に話す、聴く。

対話活動サポートカードの活用

| 「バズタイム」 べちゃくちや、おしゃべりしよう！(お答えバージョン) 3～6年生 | |
|--|--|
| こんなことをつたえたい！ | つたえかた・いいかた・はなしかた |
| 1 自分の考えや思ったことを言いたいな。 | 「わたしは、～だと思うよ。」 「わたしの考えは、～だよ。」 「わたしは、～だと予想したよ。」 「～に、～だと書いてあったよ。」 |
| 2 理由やわけを言いたいな。 | 「そのわけは、～だよ。」 「それは、～だからだよ。」 「～と考えたのは、～だからだよ。」 「それは、○○という資料から分かるよ。」 |
| 3 賛成、同じ考えだな。 | 「わたしは、～という考えに賛成だよ。」 「～という理由から、～という考え方と同じだよ。」 |
| 4 相違、ちがう考えだな。 | 「わたしは、～という考えとは少しちがって、～だと思うよ。」 「○○さんの考えもよく分かるけど、～という考えもあるよ。」 |
| 5 付け加えたいな。 | 「○○さんの考えに付け加えたいな。」 「～という考えに似ている考えはある。」 |
| 6 まとめたことを伝えたいな。 | 「わたしたちのグループでは、～という考えになったよ。」 「～という意見が多く出されたね。」 |

(お答えバージョン)

| 「バズタイム」 べちゃくちや、おしゃべりしよう！(司会・進行バージョン) 3～6年生 | |
|--|---|
| こんなことをはなしたい！ | たずねかた・ききかた・はなしかた |
| 1 みんなの考えや思ったことを聞きたいな。 | 「○○さんは、～について、どう思ったの。」 「○○さんは、～について、どんな考えがあるの。」 |
| 2 理由やわけを聞きたいな。 | 「○○さんは、～としてどう思ったの。」 「どこからそう思ったの。」「それって、○○ってこと。」 |
| 3 賛成の考えはあるかな。 | 「○○さんと、同じ考えの人はいる。」 「同じ考えの理由を教えてください。」 |
| 4 ちがう考えはあるかな。 | 「○○さんの考えは、少しちがう考えの人はいる。」 「ちがう考えの理由を教えてください。」 |
| 5 付け加えや似ている考えも聞きたいな。 | 「～という考えに付け加えたいことはある。」 「～という考えと似ている考えはある。」 |
| 6 考えをまとめたくな。 | 「みんなの考えをまとめたとき、～ってことであって。」 「わたしたちのグループの考えは、～ってことではないかな。」 |

(司会・進行バージョン)

② ICT 機器の効果的な活用



ロイロノートを用いて考えを説明する様子



音楽作品の共有の様子



カメラ機能による振り返りの記録

振り返りの記録方法

- 低学年
ノートを撮影して提出
- 中学年から
キーボード入力して提出

③ 「協本タイム(振り返り)」の工夫と充実

振り返りの視点提示カード

| ふりかえり わきもとタイム 5・6年 | |
|--------------------|---|
| わ | 分かったこと（分らなかったこと）気付いたこと できるようになったこと（できなかったこと） |
| き | き聞に思ったこと さらに知りたいこと |
| も | もっとやってみようこと |
| と | 友達の考えで「なるほど」と思ったこと |

視点をもとに授業を振り返る。

| ふりかえり わきもとタイム | |
|---------------|---|
| わ | 分かったこと（分らなかったこと）気付いたこと できるようになったこと（できなかったこと） |
| き | き聞に思ったこと さらに知りたいこと |
| も | もっとやってみようこと |
| と | 友達の考えで「なるほど」と思ったこと |

視点ごとのまとめ方や話し方のヒント文例



低学年



中学年

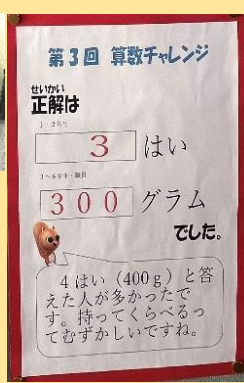


高学年

☆ 校内の環境整備



面積の公式(高学年) 外国語の単語 算数チャレンジ



- ・ 各学年で必要だと考える用語・公式等の階段への掲示
- ・ 校内の様々な場所に学びの場を設置
- ・ 量感を養うための算数チャレンジ

☆ 個人研究テーマ設定と一人一研究授業の実施

1学期に、職員研修テーマに沿った個人研究テーマを設定し、一人一授業を含めた実践的な研究を行い、個人研修の充実を図っている。また、毎学期、報告会を行い、意見を交流している。



授業研究

| 第6 個人研究 名部（ ） | |
|---------------|--|
| 個人テーマ | 教 科 等 <国語・算数・道徳> |
| 1 学期 | 主体的に考え、学び合う児童を育てる授業づくり |
| 具体的な取組 | <ul style="list-style-type: none"> ① 対話活動の在り方 <ul style="list-style-type: none"> ・ 主体的に学習できるように教材教具を用意したり、発問を精選したりする。 ・ 対話活動が充実するように活動の流れを提示したり、対話の視点を提示したりする。 ・ 対話活動を通して、他の考えに気付かせたり、自分の考えを深めさせたりできるような工夫をする。 ② ICTの効果的な活用方法 <ul style="list-style-type: none"> ・ デジタル教科書やロイロノートを効果的に活用し、児童が学習に主体的に取り組めるようにする。 ・ 本時の活用にとどまらず、学習したことや活動の内容を蓄積し、他の授業や他の教科での学習に生かす。 ③ 「協本タイム(振り返り)」の工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・ 振り返る時間を設け、本時で何ができたようになったか、何を学んだか一人一人が振り返ることから始めるようにする。 |
| 成果と課題 | <ul style="list-style-type: none"> ① 対話活動の在り方 <ul style="list-style-type: none"> ・ 主体的に学習できるように教材教具を用意したり、発問を精選したりする。 ・ 自分の気持ちや考えを伝えたり、考えたことを伝えたりすることだけになってしまったため、話の筋や視点を提示するなど対話活動が充実するような工夫が必要である。 ② ICTの効果的な活用方法 <ul style="list-style-type: none"> ・ 一人一台タブレット端末をどのように活用していくか考える。 ・ 「協本タイム(振り返り)」の工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・ 本時でできるようになったことをミニプリントや言葉で振り返る時間を設けたが、準備に時間がかかってしまうため、工夫が必要である。 |
| 2学期に向けて | <ul style="list-style-type: none"> ① 対話活動の在り方 <ul style="list-style-type: none"> ・ 話の筋や視点を提示するなど対話活動が充実するような工夫をする。 ② ICTの効果的な活用方法 <ul style="list-style-type: none"> ・ 一人一台タブレット端末をどのように活用していくか考える。 ・ 「協本タイム(振り返り)」の工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・ 振り返りが習慣化できるようにパターン化するなど、どのように振り返りをしていくか考える、実践する。 |

個人研究テーマと学期の振り返り

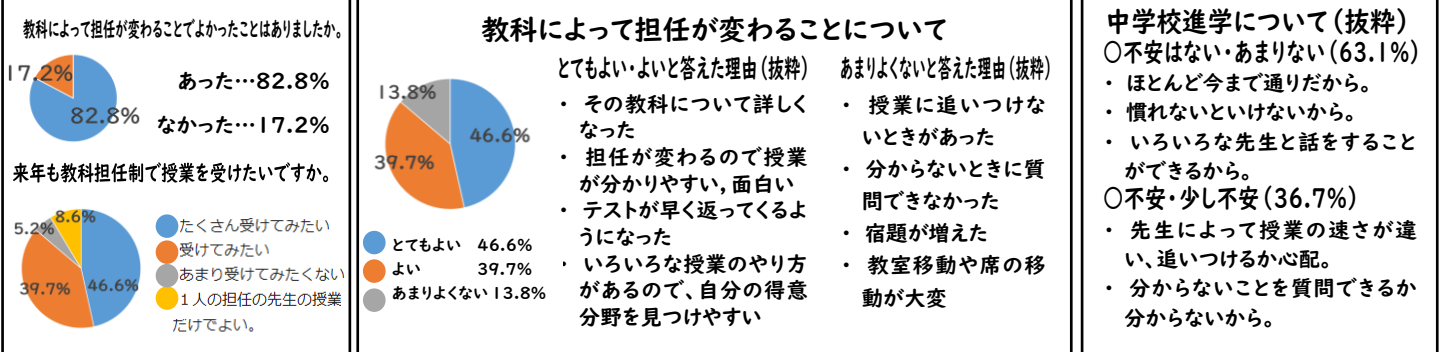
【研究の成果と課題】

1 教科担任制について

成果 ○ 課題 ●

- 教科担任が綿密な授業準備を行うことで、教科の専門性を生かした質の高い授業が実施されると感じた。
- 教科担任が授業を実施することで、子供たちが様々な指導法や学び方を知ることができ、自分でよりよい学び方を選択することにつながっている。
- 算数科、理科、外国語科の授業を同じ教師が行うことで、教科の系統性を生かした授業改善の視点が明らかになった。
- 学級担任と教科担任が連携を図ることで、多面的な児童理解につながり、子供たちの学習意欲の高まりが見られた。
- 連絡ファイルを活用したことで、放課後や気になることがあったときに児童の様子を伝え合うことができた。
- 外国語科については、昨年度、学級担任をしながら他4学級の授業を行っていたため、空き時間は週2回程度だった。今年度は、学級担任をしながら他3学級の授業を行っており、空き時間は週5時間程度確保できている。また、昨年度作成した教材も活用することができると、少しずつ業務改善されてきている。
- 6年担任については、空き時間が週7時間程度確保でき、教材研究や学級事務の時間が増えた。
- 欠席児童がいた場合の授業の補充や家庭学習の見届けが必要な場合、十分な指導時間の確保が難しい。
- 日程変更や行事の実施に伴う時間割の調整を考慮する必要がある。
- 教科ごとに宿題が出されるので、教科担任間で子供の負担にならないように量や内容の調整が必要である。

<児童アンケート>



2 校内研修の充実について

- 対話活動サポートカードを活用することで、形態に合わせた交流の仕方を意識しながら話ができるようになってきた。
- 授業の中でバズタイムを取り入れることで、自分の意見を相手に伝えることに抵抗がなくなってきた。
- ロイロノートを活用することで、互いの意見を共有しながら、よりよい考えに気づき、考えを深めることができた。また、共有されている友達の考えをヒントにすることで、課題解決ができるようになってきた。
- 動画の撮影や、音声録音をすることで、自分の学びを客観的に分析することができた。また、イヤホンを活用することで、自分のペースで集中して個別学習に取り組むことができた。
- 操作可能な教育ソフトやテスト機能を活用することで、学習内容の理解を深めたり、定着までの練習を重ねたりすることができるようになってきた。
- 振り返りの際、カードごとに具体的な例文で提示したことで、より具体的で焦点化した振り返りができるようになった。
- 振り返りをロイロノートに蓄積することで、前時の振り返り・次時の見通しをもちやすくなった。
- 互いの意見を出し合うことはできるが、それを一つにまとめたり、内容を精選して発表したりすることが難しい。
- ICT 機器を使う場面(操作する)とノートを使う場面(書く)とのバランスが難しいので、作業を精選する必要がある。
- 対話場面で ICT 機器を活用すると、目を見て話し合うことができないので、どの場面でどのように使うのかということを授業の中で見通しをもって進めていかなければならない。
- 単元を見通して計画を立て、毎時間の振り返りができるよう授業改善していく必要がある。

算数科:5年1組教室

○ 単元名「体積」(5/8)

解決の見通しの中から解決できそうな方法を選択し、一人や少人数などの学習形態で体積を求めていきます。



本日の公開授業の見どころ

外国語科:6年教室

○ 単元名「折多小のみんなに 脇本 best memory を伝えよう」(6/8)

My プランを進める際は、お手本音声やデジタル教科書を自分のペースに合わせて活用することで、個別最適な学びを確保できるようにします。



理科:5年2組教室

○ 単元名「ふりこのきまり」(5/7)

必要な器具や機器を選択し、それらを正しく使いながら調べることで、実験の結果を基に考察したり、表現したりして問題解決できるようにします。

